

区営住宅・都営住宅 入居者募集

(地元割当)

募集案内の配布は
5月21日(月)~29日(火)

【募集戸数】▶区営住宅20戸、▶都営住宅(地元割当)3戸
 ※地元割当は新宿区に割り当てられた都営住宅で、区内在住の方を対象に募集しています。

【申込資格】区内在住で住宅に困り、世帯の収入が所得基準内(下表)の方。詳しくは、募集案内をご覧ください。区営住宅と都営住宅(地元割当)の重複申し込みはできません。

【募集案内の配布】5月21日(月)~29日(火)に住宅課、区政情報センター(本庁舎1階)、区役所第1分庁舎1階受付、特別出張所、区立中央・四谷・鶴巻図書館(施設の休館日を除く)で配布。5月21日(月)から、新宿区ホームページでも取り出せます。

【申込み】募集案内に折り込みの申込書に記入し、住宅課へ郵送してください。5月21日(月)~30日(水)の消印があり、31日(木)までに到着したものを受け付けます。

【問合せ】住宅課区立住宅管理係(本庁舎7階)☎(5273)3787・☎(3204)2386へ。

●所得基準表

一般世帯		障害者等の世帯	
家族数	年間所得金額	家族数	年間所得金額
1人	0~189万6,000円	1人	0~256万8,000円
2人	0~227万6,000円	2人	0~294万8,000円
3人	0~265万6,000円	3人	0~332万8,000円
4人	0~303万6,000円	4人	0~370万8,000円
5人	0~341万6,000円	5人	0~408万8,000円

※所得金額は所得税法上の所得金額をいい、給与所得控除後または必要経費控除後の前年中の所得金額です。計算方法は「募集案内」をご覧ください。

※家族数には申込者本人を含みます。家族数が6人以上の場合は、1人に付き38万円を加算してください。



一人暮らしの高齢者の方の安心につながります
 情報紙「めくもりだより」を
 お届けしています

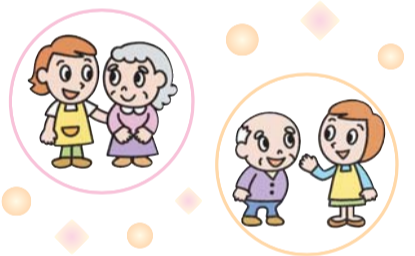
月2回、75歳以上の一人暮らしの方のご自宅を訪問し、元気なご様子を確認しながら情報紙「めくもりだより」をお届けしています。まず、地区の民生委員が、一人暮らしの状況を伺いながらお届けし、その後は、地域見守り協力員や配布員がお届けします。

「めくもりだより」の表面には、介護予防の豆知識や今日の献立などを、裏面には、高齢者の方が利用できるさまざまなサービスを掲載しています。

特別出張所や高齢者総合相談センターでも配布しています。配布の対象でない方も、ご覧ください。

【問合せ】高齢者福祉課高齢者支援係
 (本庁舎2階)☎(5273)4594・☎(5272)0352へ。

地域見守り協力員 として活動しませんか



区内在住で65歳以上の一人暮らしの方や、65歳以上の方だけの世帯で見守りを希望する方を対象に、月に2回程度訪問し、生活を見守るボランティア活動です。

見守り協力員は、一人一人の状況に応じた見守り、声掛け訪問を行うほか、定期的開催する連絡会では、情報交換や研修等も行っています。

普段何気なく行っている「やさしさの気配り」や「ほんのちよっとの助け合い」の延長として、活動してみませんか。

【問合せ】区社会福祉協議会地域活動支援課☎(5273)9191・☎(5273)3082へ。

子どもの安全を見守るポスターとこいのぼり

●●●●● 新たに始まった高田馬場の子ども見守り活動



4月25日の活動出発式(戸塚第三小学校)で

4月下旬から戸塚第三小学校(高田馬場3-18-21)周辺に、「地域で子どもを見守ろう」と書かれたポスターが掲示されています。これは、地域の町会、商店街、PTA、民生委員・児童委員、高齢者クラブ等が連携して新たに企画した、子どもの見守り活動です。こどもの日にちなんで制作した「こいのぼり」も、早稲田通りと戸三小通り沿い

の店舗・施設等にポスター500枚を貼り、地域にお住まいの方や事業者・学生等に見守りの輪を広げていきます。また、高田馬場公園(高田馬場4-22)には、5月6日まで、100匹を超えるこいのぼりが飾られました。高田馬場南親睦会の呼び掛けで約20年も続いていて、子どもの健やかな成長を願う地域の皆さんの思いが、まちの安全安心を支えています。



地域の皆さんから提供されたこいのぼり

まちかどトピックス

災害時の安心を支える顔の見えるつながり

●●●●● 榎町地区町会連合会が「東京防災隣組」に認定



中山区長に認定を報告

「東京防災隣組」は、首都直下地震などの大規模災害に備えて、地域防災力の向上と、大都市東京ならではの共助の仕組みづくりを進めるため、東京都が認定するものです。4月15日に認定式が行われ、第1回認定団体(36団体)として、榎町地区町会連合会が認定されました。

同連合会の中村廣子会長(写真上・右から2人目)は、「榎町地域は、地震ハザードマップでも危険度が高いとされています。顔が見える人と人とのつながりが、いざというときに大きな力になるはず。これからも、地域の『絆』で、まちの安全・安心を守っていきます」と話しています。

「東京防災隣組」は、首都直下地震などの大規模災害に備えて、地域防災力の向上と、大都市東京ならではの共助の仕組みづくりを進めるため、東京都が認定するものです。4月15日に認定式が行われ、第1回認定団体(36団体)として、榎町地区町会連合会が認定されました。

同連合会では、えのき「結」フェスタや、えのき防災環境フェスタなど、防災がテーマのイベントを開催し、地域の皆さんへの防災意識の啓発を進めてきました。また、地域の避難所全で毎年防災訓練を実施するなど、継続的な防災活動にも取り組んでいます。



▲防災上の課題を討議(防災ワークショップ「パワーアップえのき」で)



▼防災を学ぶ体験コーナーを設置(えのき「結」フェスタで)